

令和5年度学位記授与式・修了式式辞

令和6年3月16日（土）

アルビス小杉総合体育センター

まずは、令和6年1月1日の能登半島地震でお亡くなりになられた方々にお悔みを申し上げ、被災された方々にお見舞いを申し上げます。

本日、富山県知事を始め多くのご来賓の皆様をお迎えし、令和5年度富山県立大学学位記授与式・修了式を挙行いたしますが、これも、ご来賓の皆様をはじめ、これまで本学の教育と研究を支えてくださった多くの関係の皆様のご支援、ご尽力の賜であり、教職員を代表し、心から御礼を申し上げます。

そして、今日の日を迎えられた工学部と看護学部、大学院工学研究科、および、看護学専攻科、591名の卒業生、修了生の皆さんとご家族の皆様、今日の卒業、修了のためのご尽力に心より敬意を表します。

研究や教育や大学運営に励んできた大学教職員にとって、皆さんが卒業、修了の日を迎えることは誇りであります。大学の宝物は皆さんであり、社会で活躍する卒業生に将来会ったとき、教職員はきっと充実感を覚えます。

私が若いころ、学長の仕事は入学式、卒業式の式辞を書くことだと聞いていました。現在では、学長の重要な仕事に大学運営なども含まれますが、やはり、式辞は学長にとって、とても重要なメッセージの発信です。卒業、修了する皆さんだけでなく、大学教職員に向けて、そして、大学をとりまく社会へのメッセージでもあります。本日は、学位記授与式の式辞として皆さんの将来への期待として、活動のぶれない軸についてお話しをしようと思います。ぶれないとは、安定した、変わらない、ともいえるし、頑固という言葉があたるかもしれません。

どんな三次元の物体、剛体にも、ある軸の周りだけの回転、つまり独楽のようにある軸の回転を続けられる、そのような軸が三つあり、それらの軸は x 、 y 、 z 軸のように直交します。その軸の周りに物体が回転を始めると、その回転は続きます。フィギュアスケートのジャンプの回転軸、独楽の回転軸、地球の自転軸は典型的な例です。

人の体を三次元の固い物体とみなすと、この三つの軸は、大雑把に言って、一つ目は頭から足先までの軸、スケートのジャンプで回転する軸です。二つ目はへそから背中に至る軸。三つ目は右わき腹から左わき腹に至る軸です。これらは三次元の x 、 y 、 z 軸として直交し、この軸で回り始めた回転は外力で乱されない限りぶれることはありません。フィギュアスケートのジャンプで、空中で何回転もして着氷できるのはこのぶれない軸で回転を始めたからだと解釈できます。

ところが、この三つの軸とは異なる軸で回転を始めると、回転の軸が変化し不安定なものとなります。硬貨を、親指を使ってトスしたときに、コインへの爪のあたり具合が偏ると目まぐるしく硬貨の回転軸が変化するのがその例です。

地球は、私たちの生涯の時間の長さでは、自転軸の周りにぶれない回転をしていると考えられます。地球の自転軸の先に北極星があります。私が小学生のときの星座早見盤の回転の中心は北極星でした。現在の小学校の理科の教材の星座早見盤の回転の中心も北極星です。地球の回転軸の先に北極星が常にあるように、ビジョンを回転の中心として、地球の自転軸、独楽の回転軸、フィギュアスケートのジャンプの回転軸のような、ぶれない軸、回り続けられる活動軸を、私はみなさんが40歳くらいになるまでに、見つけることを期待しています。

私自身は大学で活動してきたので、自らのぶれない活動軸は研究に関するものです。一つ目は移動ロボット、二つ目はロボットのためのセンシング、三つ目は微小な力の計測、の三つです。北極星にあたるものは少子高齢社会の課題解決です。皆さんも、産業や医療や行政や教育の分野で働くことになるとおもいますが、寝食を忘れ没頭でき、皆さん自身だからできるという軸で活動することを期待しています。私は自らの軸で生涯働き続けようと考えていますが、皆さんも経験を積んだ先の40歳ごろまでに見つけた、ぶれない軸で可能な限り活動を続けられるよう期待しています。

高等学校までは、なんでもできること、つまり、総合得点の高い、いいかえれば、平均点が高いことが優秀であると考えられた場面があったと思います。一方、皆さんの今後は、ぶれない活動軸で人より尖ろうとするのがよいと思います。社会は、尖った人達が集まってできたチームで仕事をするを求め始めています。チームのメンバーは別のチームに移ることもあると思いますが、社会は尖った仕事ができる人に大きな期待をし始めています。蛇足ですが、尖るとは、たとえば力学の専門性を磨いて仕事をするとも意味していますが、これまでにない軸の専門性を磨くことも意味しています。たとえば、メカトロニクス・ロボット工学は機械、電子、ソフトウェアを融合した新しいディシプリンとしての学科となりました。これは30数年ほど前に日本が世界に発信したもので、1991年に私たちが学科を作った当時、欧米では、なぜ機械と電子・ソフトウェアが融合した学科が成り立つのか理解不能ということでした。このように、融合という観点でも、少子高齢社会やサステナブルが求められる社会の課題解決に貢献するぶれない軸が、将来にわたって目白押しだと考えています。たとえば、社会科学と情報工学の融合による健康寿命の延伸や、機械工学と看護学の融合による革新的なケアなどが挙げられます。

最後になりましたが、卒業式の式辞でこれまでもお話してきたこと三つをお話しいたします。

一つ目は国際性を磨いてください。コロナの五類感染症移行からほぼ一年がたちました。海外渡航もコロナ以前に復帰したのではないのでしょうか。そこで、就職や進学先で出張など

の機会を見つけて積極的に日本の外に出てみてください。テレビやインターネットを通して得られる物価の情報よりも、出張先での話や実体験は皆さんにとってインパクトの大きなものだと思います。私たちの社会はもはや国際的な関係なくして存続できなくなっています。言葉を流暢に話せるより重要なことは、自分自身が相手に伝えたいこと、知りたいことを、しっかり持つことです。伝えたいこと、知りたいことがあれば、最初は勇気がいるかもしれませんが、コミュニケーション能力は時とともについてきます。二つ目は多様性の理解です。世界には、様々な民族や宗教、価値観があり、対立が争いに発展する例を、私たちは歴史的にも現在のニュースでも見てきました。平和で安定した社会のために多様性を理解した上で、私たちにできることがあるはずです。三つ目は卒業生としての富山県立大学への愛着です。在学中に培った友人や教員とのネットワークは、社会に出ても価値のあるものでしょう。仕事で行き詰ったら、大学を訪ねて相談してみてください。富山県立大学の教員は、解決策を提案したり、アドバイスもできます。

卒業、修了する皆さん、今日は、皆さんの努力が結実した締めくくりの日であると同時に、次のステップに進む出発の日でもあります。皆さんは、地域社会や、日本や、世界を変革する力を持っています。ビジョンと、ぶれない軸を見つけ、さらにその軸で活動できるよう、これからも研鑽を続けてください。皆さんの、価値と独創性のある活躍を富山県立大学の教職員はみな応援しています。皆さんとご家族に敬意を表しながら、私の言葉を結びます。

令和6年3月16日

富山県立大学学長 下山勲